

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	音楽B(0271)	
科目基礎情報							
科目番号	1E25			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	実技			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	産業システム工学科電気情報工学コース			対象学年	1		
開設期	後期			週時間数	1		
教科書/教材	「Mousa 1」 (小原光一・北澤肇・内藤淳一・他共著、教育芸術社)						
担当教員	坂本 利枝子						
到達目標							
・音楽の美しさ・楽しさを味わい、意欲的に表現・創作活動ができる。 ・様々な音楽にふれ、作曲家やその時代背景、表現法、形式等を知ることにより、音楽への知識や理解を深めることができる。 ・生涯にわたって音楽を愛好していこうとする心を育む。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	音楽の美しさ・楽しさを味わい、意欲的に表現・創作活動が出来る。			音楽の美しさ・楽しさを知り、表現・創作活動が出来る。		音楽の美しさ・楽しさを味わうことが出来ず、意欲的に表現・創作活動が出来ない。	
評価項目2	作曲家やその時代背景、表現法、形式等を知ることにより、音楽への知識や理解を深めることができる。			作曲家やその時代背景、表現法、形式等を知ることにより、音楽への知識を身につける。		作曲家やその時代背景、表現法、形式等を知らず、音楽への知識や理解を深めることが出来ない。	
評価項目3	生涯にわたって音楽を愛好していこうとする心を育むことが出来る。			生涯にわたって音楽を愛好していこうとする心を知ることができる。		生涯にわたって音楽を愛好していこうとする心が育まれない。	
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー DP1							
教育方法等							
概要	音楽の幅広い活動を通じて音楽の美しさ・楽しさを味わい、音楽についての知識・理解を深め感性を磨くと共に表現や鑑賞の能力を養う。 【開講学期】冬学期週2時間						
授業の進め方・方法	クラシック音楽を中心に近現代の音楽、ポピュラー音楽、民族音楽、日本の伝統音楽等についてふれる。また、私たちの身の回りの音についてもふれ、音や音楽が私たちに与える影響や音環境についても考察する。表現は、歌唱を重点的に扱うが、器楽、創作活動も取り入れる。 【評価方法】実技テスト（表現）50%、授業内の課題提出（鑑賞・創作）40%、授業態度・取り組み（意欲）10%により総合評価し、総合点 60 点以上を合格とする。						
注意点	様々な音楽に触れ、音楽の美しさ・楽しさを体験するとともに、適切で豊かな表現の工夫を目指す。 音楽は、曲の構成や理論など、数学や物理等科学に通じるものがあり、また文学、演劇、歴史、美術、その地域の民族性とも密接に結びついていることを理解する。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	世界の民族音楽と民族楽器		世界の民族音楽、民族楽器（笛）を理解する		
		2週	楽器作り「ケーナ」「サンポーニャ」		楽器作り「ケーナ」「サンポーニャ」が出来る		
		3週	楽器作り「ケーナ」「サンポーニャ」		楽器作り「ケーナ」「サンポーニャ」が出来る		
		4週	楽器作り「ケーナ」「サンポーニャ」		楽器作り「ケーナ」「サンポーニャ」が出来る		
		5週	自作楽器で演奏しよう「ケーナ」「サンポーニャ」		自作楽器「ケーナ」「サンポーニャ」で演奏出来る		
		6週	自作楽器で演奏しよう「ケーナ」「サンポーニャ」		自作楽器「ケーナ」「サンポーニャ」で演奏出来る		
		7週	アメリカの音楽「ゴスペル」		アメリカの音楽「ゴスペル」を理解する		
		8週	アメリカの音楽「ゴスペル」		アメリカの音楽「ゴスペル」を理解する		
	4thQ	9週	アメリカの音楽「ゴスペル」		アメリカの音楽「ゴスペル」を英語で歌える		
		10週	アメリカの音楽「ゴスペル」		アメリカの音楽「ゴスペル」を英語で歌える		
		11週	オペラの世界「カルメン」		オペラの世界「カルメン」を理解する		
		12週	オペラの世界「カルメン」		オペラの世界「カルメン」を理解する		
		13週	オペラ・アリアを歌おう		オペラ・アリアを歌える		
		14週	オペラ・アリアを歌おう		オペラ・アリアを歌える		
		15週	実技テスト		実技テストを受ける		
		16週	実技テスト		実技テストを受ける		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	実技テスト		課題	授業態度・取り組み		合計	
総合評価割合	50		40	10		100	
基礎的能力	50		40	10		100	